

阪神・淡路大震災から20年、
私たちの地域を語りあいます。

川崎市防災 シンポジウム

【日時】

平成27年1月15日(木)
午後2時～4時半

【会場】

エポックなかはら大ホール
入場無料



平成26年度 川崎市防災シンポジウム 開催概要

シンポジウムの目的

阪神・淡路大震災から20年が経過する節目の年にあたり、当時の被災地の状況や地域住民の支え合い、震災の経験から得られた教訓などを振り返り、市内各地域での防災活動の充実に向けた一助とするとともに、自主防災組織を中心とした地域防災力の向上を図る。

開催日時／会場の場所

開催日時 平成27年1月15日(木)
午後2時～4時半

開催場所 エポックなかはら大ホール

会場住所 中原区上小田中6-22-5

※ JR南武線「武蔵中原」駅直通



プログラム内容

○ 開会挨拶(午後2時)

○ 基調講演「阪神・淡路大震災を語る」

阪神・淡路大震災当時の体験を今に伝える語り部として現在もご活躍されている秦 詩子さんにより、当時の体験の中で感じたことや、現在までにご経験されたことを中心にお話しいただく。(午後2時05分～)

○ パネルディスカッション「災害時に地域で支えあうためには」

市内で防災活動を行う方々により、それぞれの立場から、大災害が起きた時の地域での支えあいをテーマに、常日頃から各家庭・地域で取り組むべきことや、災害が発生した際の自主防災組織の活動のあり方などについて、語り合っていた。 (午後2時55分～)

出演者プロフィール



【秦 詩子 氏】基調講演者・パネリスト

阪神・淡路大震災を神戸市灘区の自宅にて被災。震災後、8年を経て「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」の語り部ボランティアをはじめられた。以来、現在に至るまで語り部を続けられているほか、全国各地からの依頼を受け、語り部講演を行い、実体験に基づいた防災啓発に取り組まれている。神戸市東灘区在住。



【若林 忠司 氏】パネリスト

地元自主防災組織のリーダーとして、町内会における活動はもとより、橋中学校避難所運営会議委員長として、避難所の開設訓練や、中学校の防災教育への協力等、地域防災力の向上に向けて精力的に御活躍されている。また、同中学校防災ネットワーク連絡会議委員長も務め、中学校区における広域の避難所連携についても積極的に取り組まれている。新作第一町内会会長、高津区在住。



【中村 敏一 氏】パネリスト

(一財)消防科学総合センター防災図上訓練指導員として、全国各地へ精力的に赴き活躍される傍ら、川崎市自主防災組織リーダー等養成研修の講師として、川崎市の避難所運営についてご協力いただいている。元消防局職員、元危機管理室職員。



【協本 靖子 氏】パネリスト

川崎市男女共同参画センター(愛称:すくらむ21)事務局長。東日本大震災以降、避難者支援を実施する中で、日頃の防災・減災の活動の必要性を痛感。公募で集まった「女性の視点でつくる防災プロジェクト」の市民メンバーとともに防災冊子やニュースレター、出前講座等を行い、情報発信を行っている。昨年「男女共同参画の視点から作る避難所運営マニュアル」を発行した。



【日野 宗門 氏】コーディネーター

専門分野は防災図上訓練、自治体の危機管理、地域防災計画、自主防災組織など。地域防災活動の企画指導に造詣が深く、平成19年4月から川崎市防災企画専門員として訓練の指導等に携わっているほか、総務省消防庁の「地方公共団体の防災図上訓練実施要領モデルの作成に関する調査研究委員会委員」を務めるなど、広い視点と多角的知見を持つ。京都大学工学部卒業、京都大学大学院工学研究科博士課程修了。気象予報士(No.280)。